

令和2年度 第2回支援コーディネーター全国会議

福岡県及び久留米大学病院の 取り組み



久留米大学病院

高次脳機能障害支援コーディネーター
(精神保健福祉士) 弥吉江理奈



令和3年2月26日(金)

本日の内容

～コロナ禍での現状を含めて～

1. 県内4拠点機関と久留米大学病院の紹介
2. 福岡県高次脳機能障がい支援事業について
3. 当院における診療体制と主な支援
4. 当院の実績報告(平成27年度から5年間と今年度の比較)
コロナ禍が影響したと考えられる相談ケース
コロナ禍での就労支援事例
5. 今後の課題について

県内4拠点機関と久留米大学病院の紹介


福岡県障がい者
リハビリテーションセンター
(県リハ)

福岡市立心身障がい
福祉センター
(あいあいセンター)

久留米大学病院

産業医科大学病院

- ・特定機能病院
- ・1,018床(一般965床、精神53床)
- ・標榜診療科34科
- ・高次脳機能障害の診療については
主に精神神経科が担当
(各科と連携して支援にあたっている)



福岡県高次脳機能障がい支援事業について ～コロナ禍での現状を交えて～

1. 相談支援

○相談支援コーディネーターの配置

- ・4つの支援拠点機関に多職種のコーディネーター（PT, OT, CP, PSW）
- ・それぞれ機関の特色を生かした支援を連携して行っている

○家族支援相談会の開催（1回/月）

⇒事前予約制で実施

○出張家族支援相談会（3回/年）

⇒京築・田川、南筑後の各保健所にて実施

○専門相談ホットライン

- ・福岡県障がい者リハビリテーションセンター内（県リハ）に設置

4拠点機関の新規(初回)及び継続(のべ)件数の推移 平成27年度から5年間

新規件数



継続件数



2. 普及啓発

○高次脳機能障がい講演会（1回/年）

令和2年6月6日（土）

「高次脳機能障がい者の就労支援について」

（講師：名古屋市総合リハビリテーションセンター：稲葉健太郎先生）

⇒順延の末、やむなく**中止**（来年度、同内容で開催予定）

○支援ガイドやリーフレットの配布

福岡県、県リハ、あいあいセンターのホームページに掲載

3. 研修

○高次脳機能障がい支援セミナー（2回/年）

⇒9月に予定していた久留米開催は**中止**

⇒12月9日（水） 感染対策を講じた上で、集合形式にて開催

「高次脳機能障がいについて（基礎編）」

（講師：福岡県障がい者リハビリテーションセンター：永吉美砂子先生）

参加者130名のアンケート結果から

初めての参加が約8割、相談窓口を知らなかった方も約4割いた

※さらなる普及啓発が重要

4. 会議

○ネットワーク会議(5回程度/年)

⇒すべてWEB開催

○相談支援体制連携調整委員会(1回/年, 委員:23名)

⇒令和3年2月15日集合形式での開催としていたが、**書面会議**へ変更

○九州ブロック会議(1回/年, 輪番制で今年度は福岡が幹事県)

⇒各機関から事前に議題をあげ、回答する形で**書面会議**として実施

⇒12月17日**WEB開催**にてコーディネーター意見交換会を実施

「コロナ禍における拠点機関の相談や研修会の状況について」を
テーマに情報共有した

5. その他

○福岡県安全運転医療連絡協議会(2回/年)

⇒4月11日開催は**中止**、10月10日は**WEB開催**

○福岡県リハビリテーション講習会(1回/年, 日本損害保険協会助成)

⇒9月19日**WEB開催**

○福岡コージネット研修会(3回/年)

⇒**中止**

○医師向け生涯教育講座(1回/年)

⇒**中止**

○家族会との意見交換会

⇒**中止**

○障害者雇用支援連絡協議会(1回/年, 福岡障害者職業センター)

⇒2月4日集合形式で開催を予定されていたが、**WEB開催**へ

その他、各種出前講座などへの講師派遣も**中止**となっている

久留米大学病院における診療体制と主な支援
令和2年度の実績報告
～コロナ禍での現状を踏まえて～

高次脳機能障害 外来診療体制

本人・家族または関係機関等より相談



精神神経科外来 初診(精神科医3名で対応)



頭部MRI及び脳波検査、神経心理学的検査等の各種検査
(必要に応じて脳外科で精査、耳鼻科で言語機能検査なども)



精神神経科外来 再診

(検査結果の説明と今後の支援方針を検討する)

- ※社会的行動障害に対しては、様々な誘因を検討、
対応方法の工夫・指導や環境調整(非薬物療法)を原則とし、
必要に応じて向精神薬による薬物療法を併せて行う
- ※診断後も定期的受診によるフォローアップ、適宜再評価を行う
- ※精神科(急性期治療)病棟での検査目的での入院は行っていない

主な支援内容

○認知機能訓練

- ・高次脳機能疾患研究所でのグループ訓練
- ・精神科デイケアでのリハビリテーション

○社会制度の活用(診断書等の手続き)

- ・精神障害者保健福祉手帳・障害年金、自立支援医療等の申請
- ・労災や自賠責保険等、症状固定に関わる診断書
- ・成年後見や公安委員会(運転免許証)の意見書 他

○生活・就労支援における外部機関との連携

- ・個別支援として、障害の程度により訪問看護、障害者基幹相談支援センターや就業・生活支援センターなど地域の支援機関と連携している

高次脳疾患研究所でのグループ訓練について

- 日 時：毎週水曜の午後から2時間
- 場 所：学内
- 対象者：当院で評価診断を受けた方で、本人が参加を希望し、主治医が適応ありと判断したメンバー
- スタッフ：PSW、CPなど
- 内 容：トランプ(変則的な神経衰弱・七並べ)やしりとりなどのゲーム、パズルや川柳などの創作活動

⇒4月8日より**休止**、現在も再開の目途は立っていない
参加メンバーに対しては電話での生活状況等の確認、助言を
継続している

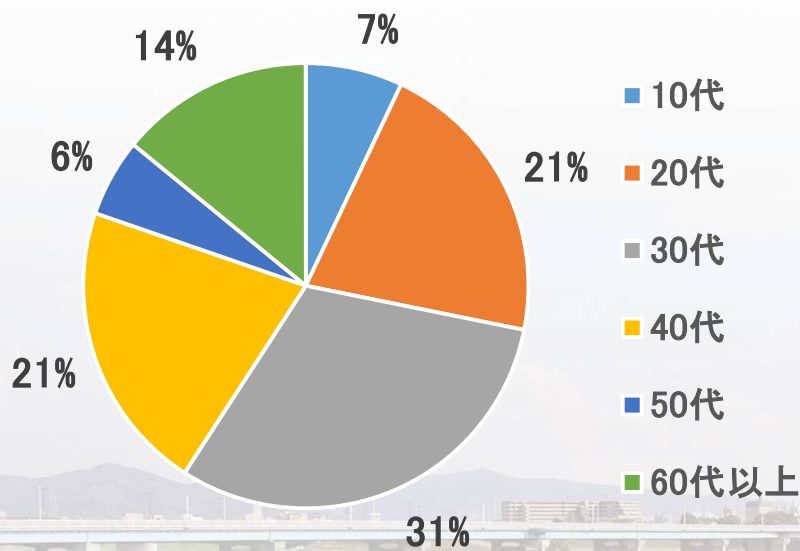
久留米大学病院 精神科デイケアについて

(令和2年12月末時点)

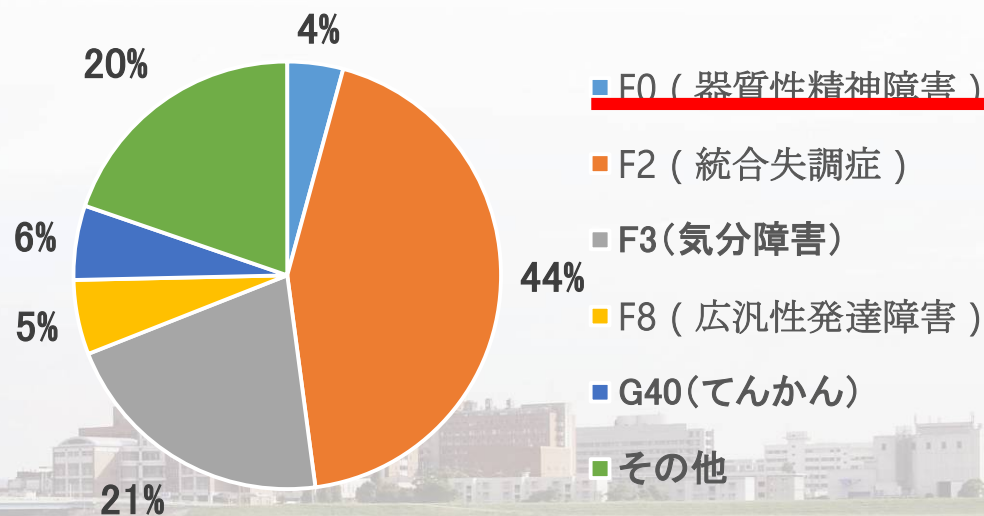
在籍者数: 71名 (男性: 40名・女性: 31名)

平均年齢: 40歳2ヵ月 (男性: 42歳2ヵ月・女性: 38歳2ヵ月)

年齢層



疾患内訳



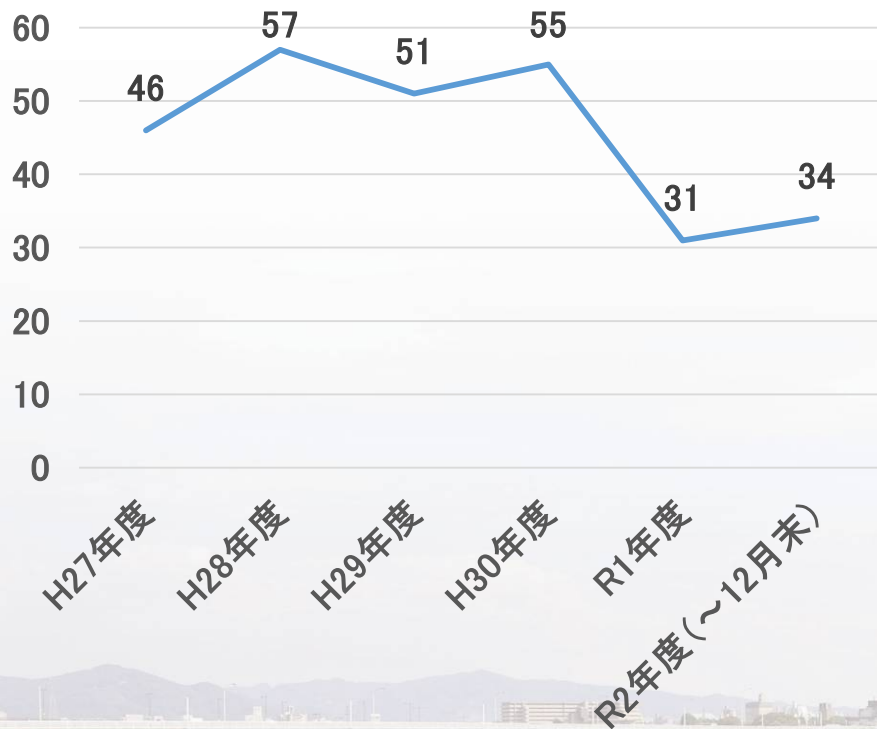
精神科デイケア週間プログラム

	午前	午後
月	Girl's Friends アルバイトグループ なごみ会	Girl's Friends スポーツ
火	eスポーツ AGRI (農園芸) PC教室(初級者コース)	アルバイトグループ 軽スポーツ
水	新入所グループ IMR(疾病管理とリハビリ) Friends	ヨガ スポーツ
木	GCBT(集団認知行動療法) ふれあい会 料理グループ	SST(社会生活技能訓練) コアトレ PC教室(中級者コース)
金	新入所グループ 自由活動 クラフト(七宝焼・革工芸)	スポーツ

⇒院内感染対策本部の災害レベルの基準に従い、
 感染対策を講じながら活動を継続している

久留米大学病院における 新規(初回)及び継続(のべ)件数の推移 平成27年度から5年間と令和2年度(12月末時点)

新規件数



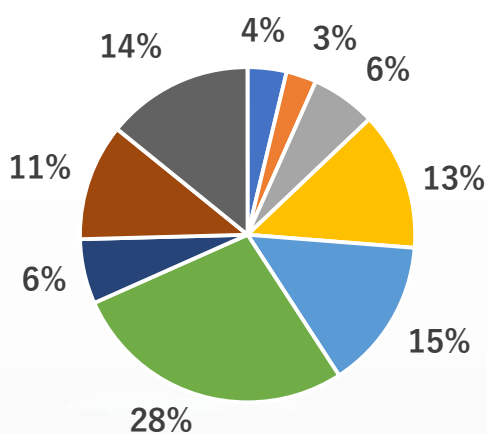
継続件数



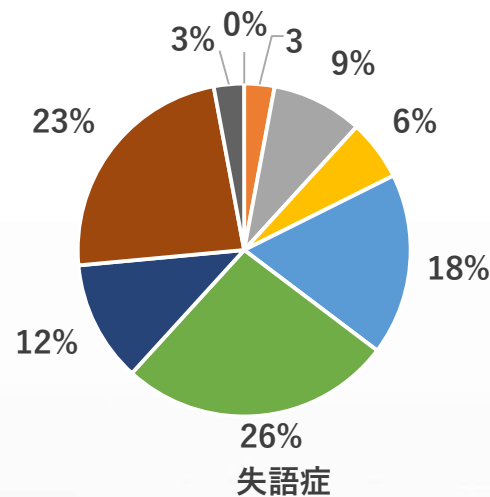
初回相談 年齢別と主要症状の割合

平成27年度から5年間

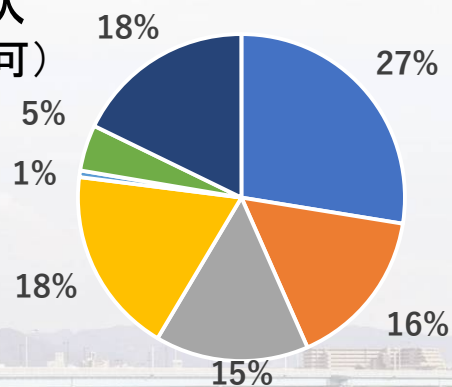
年齢別



令和2年度(12月末時点)



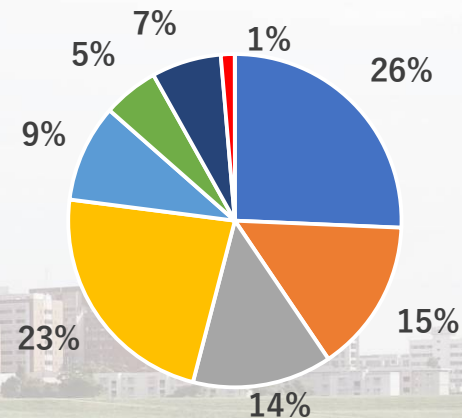
主要症状
(複数回答可)



(n=240)

- 0～15歳
- 16～19歳
- 20～29歳
- 30～39歳
- 40～49歳
- 50～59歳
- 60～64歳
- 65歳以上
- 不明

- 記憶障がい
- 注意障がい
- 遂行機能障がい
- 社会的行動障がい
- その他
- 病識欠如
- 不明
- 失語症

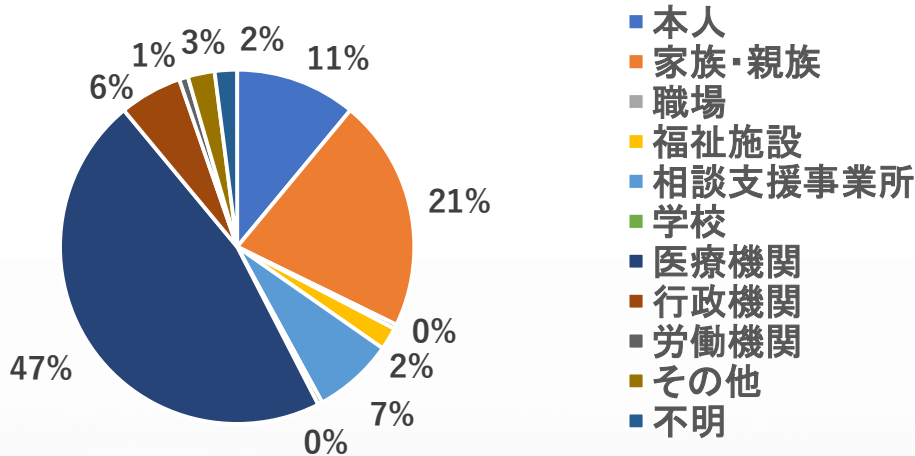


(n=34)

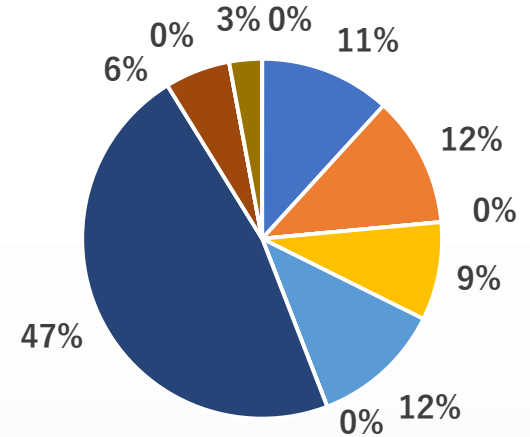
初回相談 相談者と相談内容の割合

平成27年度から5年間

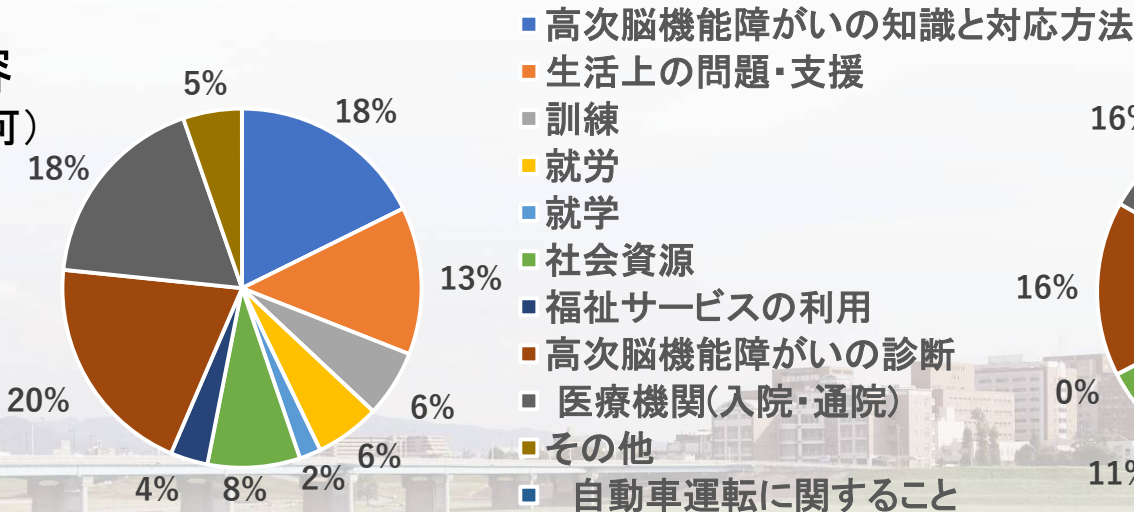
相談者



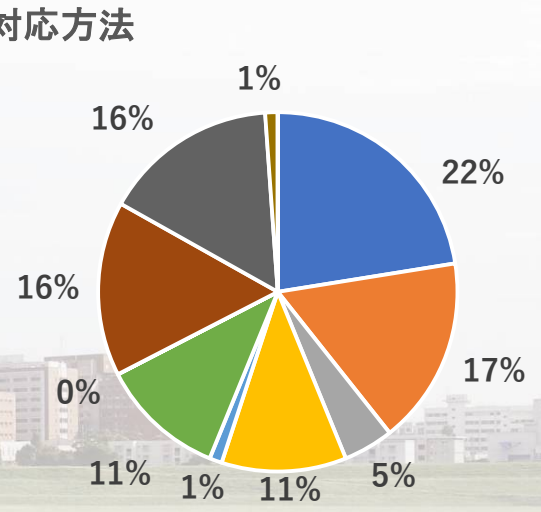
令和2年度(12月末時点)



相談内容
(複数回答可)



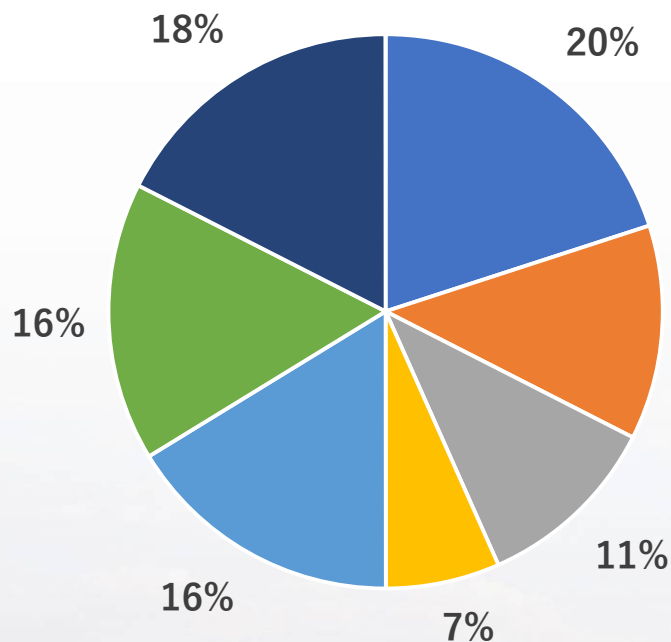
(n=240)



(n=34)

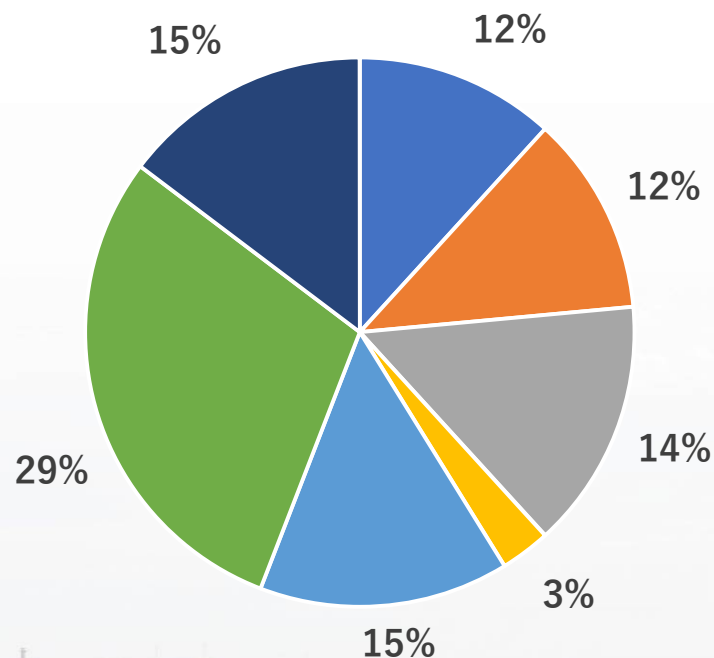
初回相談 受傷発症から相談までの 期間の割合

平成27年度から5年間



(n=240)

令和2年度(12月末時点)



(n=34)

コロナ禍が影響したと考えられる相談ケース

- 抑うつや不安、アルコール問題等が著明になり、治療介入に至ったもの
- 受け入れ機関（医療機関や福祉施設）側の事情が影響したと思われるもの
- コロナ禍での就労環境の変化が影響したと思われるもの

コロナ禍での就労支援事例の紹介

まとめ

- 久留米大学病院では、特定機能病院として、より詳細な評価・診断を行うとともに、定期通院加療や再評価なども行っている
- 精神神経科が主に担当していることより、社会的行動障害や精神症状に対しての薬物療法や入院加療も適宜行える点に強みがある
- 精神科リハビリテーションのノウハウを生かした支援を行っている
- アウトリーチが不足しているため、個別支援を行うために地域の専門機関と連携して支援にあたっている
- コロナ禍で生活様式が大きく変化したことにより、社会的行動障害や精神症状が増悪したケースの増加、就労に関連した相談が目立った

今後の課題

- 併存障害のある方や鑑別診断が必要な方への対応
発達障害やアルコール関連疾患、認知症などの合併
- 小児の高次脳機能障害者への支援
発達過程にある小児期特有の課題として長期経過を追う必要があり、
適宜院内小児科と連携して対応しているが、継続支援が難しい
- 画像所見陰性の方への対応
MTBIなど各種検査所見と一致しない多彩な症状を呈する方への対応
- 自動車運転再開に関する支援
福岡県安全運転医療連絡協議会の基準に沿った神経心理学的検査を実施
新たにドライブシミュレーターでの評価を開始した
今後、近隣の指定自動車教習所と連携し、実車教習含めた支援を行っていく